

Skina 清拭の検討

— Skina 泡沫剤と石けん清拭との比較 —

宇野 恵子

A Study of SKINA-Washing Procedures :

— Comparison between soap-bathing and SKINA-bathing —

Keiko UNO

概 要

入院患者の保清の中で、身体の清潔とは、主に皮膚・頭髮・口腔・爪・耳・眼などを清潔にすることである。健康であれば、皮膚の機能が十分に果たせるように、自分でコントロールし、身体の清潔を保っている。しかし、健康を害された状態にある人は、疾病のために皮膚の機能が弱っている上に患者個人で、清潔を保つことはむずかしい。そのため、誰かの援助を要する。

ここでは、清拭について検討してみたい。清拭が患者の援助の中で占める割合は非常に大きく、業務の合理化の面から良いといわれる Skina 泡沫剤と、基本清拭である石けんと温湯を用いた清拭について比較検討してまとめた。清拭本来の目的である皮膚の生理作用を十分に果たせるような援助は、石けん清拭に勝るものはない。

看護婦は、科学的裏付けを持ち、熟練した技術でもって、看護しなければならない。

はじめに

人間にとって、清潔を保つことは基本的欲求を満たす上で重要である。日本人の生活習慣としての入浴から考えても、入院患者の清拭の要求度は非常に高いといえる。より適切な清拭法を見だし、患者の care に役立てたいと思う。

この実験は、学内実習で基本として実施している温湯と石けんを用いる清拭技法の中において、川崎医科大学附属病院で良く使用されている Skina 泡沫剤について、文献および実験をもとに、基本清拭と Skina 泡沫剤を用いる清拭（以後 Skina 清拭という）の比較検討を行った。

Skina 清拭は、臨床の care において、業務の合理化の面で良いと言われている。しかし、1971年の看護技術に氏家の実験では、Skina 清拭は皮膚症状が実験例、5例全員に20分30秒にて出現している。そこで、Skina 清拭はより適切な清拭方法を見だすことにより、Skina 清拭の目的が明確化する。また、従来の石けん清拭と比較検討をすることを目的とする。

1 実験の目的

Skina の使用方法によると、お湯や水の手間がかからない画期的な殺菌性皮膚清拭剤です。お

肌にまんべんなくのばし、マッサージをするように筋肉をほぐしながら乾かないうちにタオルで拭きとってください、と述べてある。しかし、乾燥時間・拭き方・回数については全くふれていない。

Skina 清拭の適切な清拭方法を見だし、使用目的を明確化し、石けん清拭と Skina 清拭を比較検討をすることを目的とする。

2 実験の条件

(1) 実施期間

昭和54年11月～12月

(2) 実験場所

看護実習室 室温 24～26度 湿度60～70% (条件を病室に近づけるため、暖房装置にて保温する)

(3) 実験の対象

看護学生が互いに実験者・被実験者となる。

3 実験方法

Skina 泡沫剤を塗布後、乾布で拭き、その後蒸しタオルで清拭を行ってはどうだろうか、といった安全性への仮説を基に実験する。

実験Ⅰ) Skina 清拭の条件を一定にする。

実験Ⅱ) 清拭方法の安全性を知る。

実験Ⅲ) Ⅰ)の実験結果を用いて被検者に、Skina 清拭と石けんと温湯を用いた基本清拭を施行し、比較検討を行う。

実験Ⅳ) 殺菌効果の問題について検討する。

4 実験方法および結果

実験Ⅰ) Skina 清拭の条件を一定にするため、まず、Skina は皮膚に塗布した後、乾燥するまでにタオルで拭き取ると説明されている。乾燥するまでの時間はどのくらいであるか測定する。また、塗布後の皮膚刺激の状態を観察する。

実験Ⅰ)-① Skina 2g を測り片上肢に塗布し、そのままの状態乾燥時間を測定する。

実験Ⅰ)-② Skina 2g を測り片上肢に塗布し、マッサージを加えた時の乾燥時間を測定する。

結果：上肢に 2g、まんべんに塗布し、放置した場合、2分30秒で乾燥した。マッサージを加えると、1分ですでに乾燥しはじめた。この結果より皮膚に塗布したのち、1分以内に拭き取る。マッサージは30秒間行う。

実験Ⅱ) Skina 清拭方法の安全性について実験Ⅰ)の結果より、片上肢に Skina 2g を塗布、その後30秒間マッサージを行い、乾燥しない1分以内に拭き取ることを一定条件とする(以後一定条件という)。その他、タオルは短大看護実習で使用のもの1枚50gのものを蒸しタオルとした場合、1枚160g(水分110gを含む)蒸しタオルの温度50度とする。

実験Ⅱ)-①一定条件のもとに乾いたタオルで1回拭き取り、皮膚反応を観察する。

実験Ⅱ)－②一定条件のもとに蒸しタオルで1回拭き取り、皮膚反応を観察する。

実験Ⅱ)－③一定条件のもとに乾いたタオルで1回拭き取り、さらに、蒸しタオルで1回拭き、皮膚反応を観察する。

実験Ⅱ)－④一定条件のもとに乾いたタオルで1回拭き取り、さらに、蒸しタオルで2回拭き、皮膚反応を観察する。

結果：Skina 泡沫剤を2g片上肢に塗布後30秒間マッサージを行い、乾燥しない1分以内に拭き取る方法にて、①から④の実験を行った。結果は表(1)となる。被検者5例に行った結果、

表(1) Skina 清拭時の経過観察

()内 分

観察項目	拭く方法					乾いたタオル1回					蒸しタオル1回					乾いたタオル+蒸しタオル					乾いたタオル+蒸しタオル2回				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					
掻痒感	-	+	+	-	-	-	-	-	+	-	-	-	+	+	-	-	-	+	+	-					
		(5)	(100)						(15)				(5)	(80)				(5)	(60)						
発赤	-	+	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
		(10)					(5)		(20)																
発疹	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
							(30)																		
消失	-	+	+	-	-	-	+	-	+	-	-	-	+	+	-	-	-	+	+	-					
		(35)	(110)				(60)		(40)				(10)	(81)				(62)							
							食						軽	軽				軽							
							ア						い	い				い							
							レ																		

乾いたタオルで1回拭いた場合2例に皮膚症状が見られた。1例には掻痒感が5分で見られ、発赤が10分で出現し、35分で消失している。他の1例は軽い掻痒感が100分で出現し、10分後に消失している。

蒸しタオルで直接拭いた場合は、2例に皮膚症状が見られた。1例は発赤、発疹が強く、上肢全体がはれぼったく、熱を持っていた。この被検者は、軽い食アレルギー体質である。1例は掻痒感と軽度の発赤が見られた。

乾いたタオルで拭いたあと、さらに蒸しタオルで拭く方法では、3例に掻痒感が出現した。しかし、非常に軽度な症状であったが、消失するまでに62分から81分を要した。

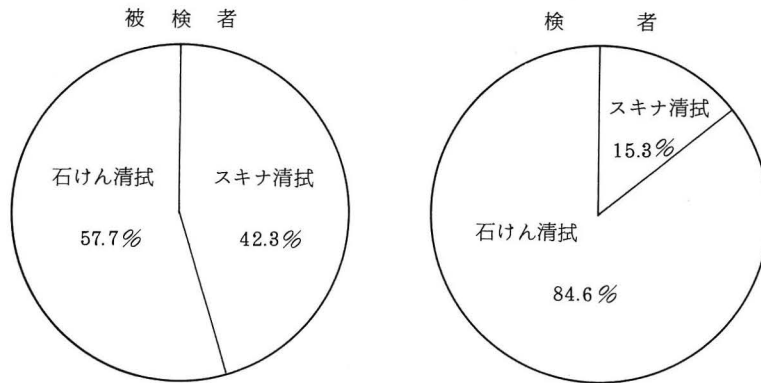
乾いたタオルで拭いたあと、蒸しタオルで2回拭く方法では、5例の被検者に何ら皮膚症状を認めなかった。

以上の結果より、最も安全な方法はSkina 塗布後1分以内に拭き取る。まず、乾いたタオルで拭き、その後、蒸しタオルで2回拭けば安全である。

実験Ⅲ) 温湯と石けんを用いる基本清拭とSkina 清拭を上半身に行い、比較検討する。基本清拭の条件として、湯の温度50度とし、wash cloth で石けん清拭後温湯を用いて3回拭き取る。部位は上半身(臍より上)に行う。右側半身に基本清拭、左側半身にSkina 清拭を行う。26人がお互いに検者・被検者となる。清拭終了時の感想と訴えを調べる。

結果：Skina 清拭と温湯と石けんを用いた基本清拭を同一人に行い比較検討をした結果表(2)となった。総体的に検者・被検者とも従来の石けんを用いる基本清拭が好まれた。しかし、被

表(2) スキナ清拭と石けん清拭の比較



検者となった感想の割合でSkina 清拭が良いとする者42.3%, 石けんと温湯を用いた基本清拭が良いとする者57.7%に比べ、やや低い程度である。看護者である検者の割合が石けんと温湯を用いる基本清拭が良いとする84.6%に対して、Skina 清拭は15.3%と大差を見た。これは指で直接Skina 泡沫剤をマッサージしたことにある。スポンジか、wash cloth を使用して、マッサージをした方が良いであろう。

感想と訴えの内容としては、表(3)の長所・短所の訴えがある。Skina 清拭はサッパリと清涼感があり、簡単である反面、清拭をした満足感はなく、臭いが強く好む人と好まない人がある。石けん清拭は、清拭したという実感があり、きれいになった満足感がある。反面、時間がかかり、清拭後皮膚につっぱり感があった。

実験Ⅳ) 殺菌効果の問題について、実験検討する。被検者2名には前日入浴を中止して検査当日にそなえた。培地は血液寒天培地と普通寒天培地で行った。

結果：細菌培養の結果は表(4)の通りである。Skina 清拭施行前と施行後を比較すると、清拭

表(3) 感想と訴えの内容

	スキナ清拭	石けん清拭
長所	<ul style="list-style-type: none"> • サッパリして気持ち良い • 清涼感がある • 臭いが良い • 泡沫で白くなりきれいになった気がする • 簡単で早くできる 	<ul style="list-style-type: none"> • 気持ち良かった • 清拭した実感がする • きれいになった気がする • マッサージ効果がある • 満足感がある • 爽快感がある
短所	<ul style="list-style-type: none"> • 臭いが気になる • 塗布時指が直接ふれて気持ち悪い • 泡沫剤が皮膚に残った気がする • 満足感がない 	<ul style="list-style-type: none"> • 時間がかかる • 清拭後つっぱり感がある • 泡立ちが悪い

表(4) 清拭前後の培養結果

培 養	方法 被検者	乾いたタオル1回	乾いたタオル+蒸したタオル
		A	B
清 拭 前		++	+++
清 拭 後		+	—

後に細菌が減少していることは明らかである。しかし、1回拭き取った時と2回拭き取った時では、2回拭いた方が細菌が減少しているといった結果になった。

考 察

Skina 清拭と石けんと温湯を用いた清拭についての結果はすでに述べた。Skina 清拭の処理時間についてみると、短時間処理の大切なことがSkina 泡沫剤の成分からも知ることができる。

成分：クロルヘキシジングルコネート	0.1%	(殺菌作用)
メイボン 4CT	4.2%	(皮膚柔軟作用)
ラノボール A170	0.5%	(泡沫作用)
ポーラワックス A-31	3.1%	(〃)
変性エチルアルコール	40.0%	(〃)
精 製 水	51.8%	(防臭作用)
香 料	0.3%	

以上の成分であるエチルアルコールを含有しているため、2gを上肢に塗布後放置した場合2分30秒、機械的刺激を加えれば1分以内に処理する必要がある。Skina 泡沫剤による清拭にしても、対象者により個人差があることが考えられる。臭い1つを取っても、良いと感じる人と悪いと感じる人がいる。清拭後の皮膚のしっとりとした感じにしても皮膚の性質に個人差があり、快い人と気持ち悪い人といったように認識の違いが見られた。これらは被検者が持つ体質、体臭、皮膚の生理作用の違いによりSkina 泡沫剤の成分が与える反応も、人それぞれだと考えられる。

安全性についてみると、Skina 泡沫剤使用后、乾いたタオルで拭いた後、蒸したタオルで2回拭き取れば26症例において、何ら皮膚症状は認めなかった。このうち4例は軽いアレルギー体質であった。清拭方法を乾拭き1回のみでなく、蒸したタオルを用いれば安全である。しかし、乾拭きをしないで、直接蒸したタオルで拭き取ると、皮膚症状が激しい。これは温度刺激を加えるためと考えられる。

殺菌効果については、2例では結論は出せない。Skina 泡沫剤で清拭したあと、1回拭き取った場合と、2回拭き取った場合では、Skina 泡沫剤の残量の違いから、1回拭き取った場合が細菌は少ないと仮定した。しかし、結果は乾いたタオルで拭いたあと、さらに蒸したタオルで拭いた方が細菌の数は少なかった。

中村らの実験によると、クロルヘキシジングルコネートの殺菌作用は、エチルアルコール40%含有の場合、0.005%のもので2分30秒で黄色ブドウ球菌の発育が認められず殺菌効果が認められている。Skina 泡沫剤の中には0.1%であるから、20倍含まれていることになる。しかし、Skina 清拭後の殺菌効果については疑問である。

人体における皮膚の生理作用についてみても、皮膚には身体表面の保護作用があり、皮膚は皮下脂肪組織とともに外部からの傷害を防ぎ、内部の組織、器官を保護する。皮膚のpHは弱酸性(4.5~6.5)であり、皮膚自体はアルカリ性であるが、皮膚表面の脂肪膜は弱酸性であるため抗菌作用があるとともに、病原菌の侵入を防ぎ、内部組織の乾燥を防ぐ作用すら持っている。したがって、Skina 清拭を必要とする患者は皮膚の抗菌作用が衰えた状態であるといえる。

Skina 泡沫剤による清拭は業務の合理化の面から考えると、確かに石けん清拭に比べ、短時間で準備でき、清拭時間も短くて済む。必要物品もSkina 泡沫剤、乾いたタオル、蒸したタオルで良い。国立王子病院データによると、清拭に要する時間がSkina 清拭18分、石けん清拭75分となっている。業務の合理化も大切なことである。しかし、看護本来の清拭の目的にかえり考えてみると、

- 皮膚の作用を円滑にする。
- 皮膚を刺激して摩擦することは、マッサージ効果がある(急性効果、慢性効果)。
- 褥瘡の予防
- 悪臭、かゆみを防ぎ爽快感を与える。
- Bed side に比較的長くいるために、人間関係が円滑に行われる。
- 皮膚、全身状態が観察できる。

このような清拭の実施過程における観察、communication の場として、また、皮膚の生理作用への働きかけを手段とした看護をするなら、評価は爽快となる。入浴好きの日本人にふさわしい清拭方法であるべきであろう。

結 論

清拭の意義を考えるならば、石けん清拭が最も適している。しかし、患者消費エネルギーの点から考えるならば、短時間の清拭が良いであろう。この点Skina 泡沫剤清拭は非常に短時間で終了する。また、衰弱が激しく、皮膚表面の汚染、細菌繁殖が考えられる場合には、Skina 泡沫剤の使用が良いであろう。

ここで考えなければならないことは、看護者が常に患者 side に立って、援助行為と判断がなされているかどうかである。

以上十分な報告ではございませんが、皆様のご参考になれば幸いです。

参 考 文 献

- 1) 湯楨ます・ほか (訳 ナイチンゲール=看護覚書) 現代社
- 2) 湯楨ます・ほか 看護学総論 医学書院
- 3) 阿部正和 看護生理学 メヂカルフレンド社 1976

- 4) 吉田時子 看護技術学習書 日本看護協会出版会 1980
- 5) 氏家幸子 看護技術 全身清拭に関する実験的検討 メヂカルフレンド社 1971年12月号 p.98
～119
- 6) 岡田美代 看護技術 清拭の意義 メヂカルフレンド社 1967年2月号 p.73～
- 7) 中村正夫・ほか：クロルヘキシジシングルコネートクリームの消毒効果について（Skina）報告写

